

## 第6回 Osaka Graduate Conference in Japanese Studies

### 研究発表募集のご案内

来る2024年1月に、大阪大学グローバル日本学教育研究拠点と「国際日本研究」コンソーシアムが共催するかたちで、第6回 Osaka Graduate Conference in Japanese Studies を開催いたします。この会議は、日本研究に従事する大学院生の国際発信力の強化と分野横断的な研究交流を目的として開催するものです。発表者若干名（最大8名）と主催組織のシニア・若手の研究者等あわせて20人程度で、緊張せずに発表・討論できる楽しい空間を創りたいと思っています。コンソーシアム会員機関の若手の方々が、英語で研究報告を行う経験を積む機会、研究上の人脈を広げる機会として活用して下さることを期待しています。なお、「国際日本研究」コンソーシアム会員機関から参加する発表者に対しては、旅費・宿泊費の支援があります。詳しくは、下記をご覧ください。

主催	大阪大学グローバル日本学教育研究拠点・「国際日本研究」コンソーシアム
日時	2024年1月6日（土） 10:00~16:45（予定）
会場	大阪大学中之島センター（予定） 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53 7階 セミナー室7A <a href="https://www.onc.osaka-u.ac.jp/access/">https://www.onc.osaka-u.ac.jp/access/</a>
応募資格	日本研究に従事する大学院生で、原則として「国際日本研究」コンソーシアム会員機関に所属している者。（会員機関に所属していない方の応募も受け付けますが、会員機関以外の方に割り振れる枠は限られていることをお含みおきください。）
使用言語	プレゼンテーションは英語、質疑応答は必要に応じて日本語併用可
発表内容	日本を対象とした人文学的・社会科学的研究（テーマは自由。ただし、多分野のオーディエンスを前提とした国際的視点を持つ研究発表が望ましい。）
発表時間	30分（プレゼンテーション15分、質疑応答15分）×最大8枠
応募方法	氏名・所属・学年と、発表タイトルおよび発表要旨（英語、250~300語）を、1頁のWordファイルにまとめ、11月10日（金）17時までに、 <a href="mailto:lambrech(at)let.osaka-u.ac.jp">lambrech(at)let.osaka-u.ac.jp</a> 宛※（本件担当者ニコラス・ランブレクト助教宛）の電子メールに添付して、提出してください。 ※ (at) は @ に置き換えて下さい
採否	採否は、11月26日（日）までに通知いたします。
参加費	無料
旅費等の支援	「国際日本研究」コンソーシアム会員機関に所属する発表者には、往復の旅費を支給いたします。また、遠方から参加する発表者には、前泊分の宿泊費も支給いたします。
投稿受付	ここのコンファレンスで研究発表した方からは、大阪大学グローバル日本学教育研究拠点が2024年度中に発行するジャーナルへの英語論文の投稿を受け付けます。詳細は採否の決定を通知する際にご案内いたしますが、ご投稿いただく場合は、2024年3月29日（金）までに完成原稿をご提出いただくこととなりますので、お含みおきください。

問い合わせ先 宇野田尚哉（大阪大学グローバル日本学教育研究拠点副拠点長 [unoda\(at\)let.osaka-u.ac.jp](mailto:unoda(at)let.osaka-u.ac.jp)）

ニコラス・ランブレクト（本件担当助教 [lambrech\(at\)let.osaka-u.ac.jp](mailto:lambrech(at)let.osaka-u.ac.jp)）

グローバル日本学教育研究拠点事務室 [gjs-eri\(at\)office.osaka-u.ac.jp](mailto:gjs-eri(at)office.osaka-u.ac.jp)

※ (at) は @ に置き換えて下さい



大阪大学グローバル日本学教育研究拠点  
Osaka University Global Japanese Studies Education and Research Incubator



「国際日本研究」コンソーシアム  
Consortium for Global Japanese Studies

# これまでの Osaka Graduate Conference in Japanese Studies

## 発表者の声

第5回 Osaka Graduate Conference in Japanese Studies に参加することを通じ、英語で発表する自信がつけました。英語の原稿とスライドの準備に時間を要しましたが、その甲斐あって、発表の仕方と論点の双方について専門的なアドバイスをいただきました。また、「国際日本研究」コンソーシアムの他大学の発表者と触れ合う機会にもなり、コロナ禍のなかで長い間実現できなかった貴重な経験をすることができました。研究テーマに共通項のある学生と話し合うことで研究会や研究チームについてさまざまな新情報を入手することができ、今後、その学生と協力し、ほかの研究会と一緒にパネルを組む計画を立てようとしています。この Osaka Graduate Conference in Japanese Studies は国際的な場で活躍するために必要な能力を身につけるチャンスになりますので、学年にかかわらず参加を強くお勧めします。

私は日本近現代文学を専門としており、普段の学会では日本語で発表しています。そのため英語での発表は聴く機会も発表する機会も多くありませんでした。しかし将来自分の研究を英語でも伝えられるようなスキルを身につけたいと思い、今回 Osaka Graduate Conference in Japanese Studies に応募しました。この Conference では、文学、社会学、歴史学など様々な分野の日本に関する研究発表があります。日本に関する研究対象をどのように英語で説明するかという観点から、他の人の発表を聴けることは大変勉強になりました。また専門分野の異なる先生方や聴講参加者から、質問やフィードバックをもらうことができます。特に、わかりやすいスライドの作り方などプレゼンの仕方についてもコメントしてもらえる点は、この Conference ならではの点だと思います。

私は今回初めて英語での学会発表を経験しました。日本語作品を英語に翻訳したり、プレゼンにふさわしい英語表現を学んだり、日本語発表では意識していなかった発表準備についても学びました。実際に発表をしてみても、質疑応答でしっかり答えられるよう事前に準備することも必要だと感じました。今回の経験を通して自分の英語発表に対する課題を知ると同時に、英語でも研究を伝えられるようになりたいという気持ちがより強くなりました。

## オブザーバーの声

1月7日に開催された第5回 Osaka Graduate Conference in Japanese Studies に参加することで、文学、映画、マンガ、歴史、音楽をはじめとした、多岐にわたるテーマの研究発表を聴かせていただき、大変勉強になりました。研究の視点と学術的な発表のスキルに関する先生方のご意見も私にとってとても参考になりました。また、今回の会議を通して、日本と世界各国から来られた先生方、また異分野の研究をしている若手研究者とも交流することができ、とても実りある時間になりました。

リスナーとしてコンファレンスに参加したのですが、いい勉強になりました。多岐にわたる研究発表は、日本研究を専門としていない私にとって、日本の歴史や文学に対する理解を深めるよい機会になりました。日本の先生方だけでなく海外の先生方も参加されていたので、さまざまな視点からフィードバックをいただけるというところが印象に残りました。さらに日本各地から来た大学院生の方々とディスカッションやコミュニケーションもできたので、研究の面白さを感じることができました。

第 5 回開催の様子



第 4 回開催の様子

